

a: フェイシャルマスクと口腔内のフックに牽引ゴムを装置



b: 術前

c: 術後約6か月(牽引中)
図 15-27 上顎牽引装置

d: 術後3年経過

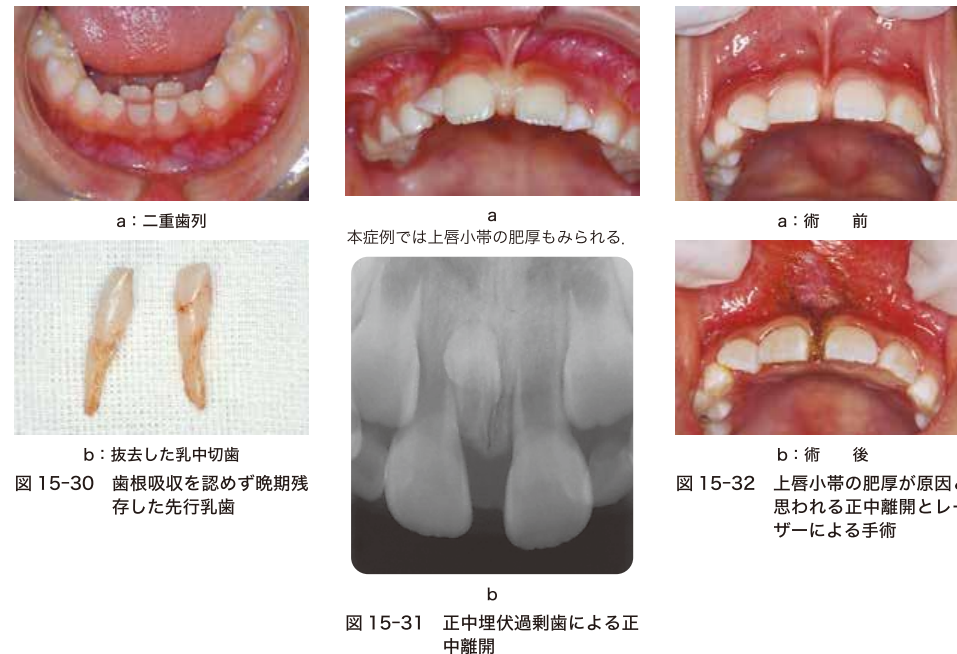


a: 装着直後

図 15-28 上顎急速拡大装置

b: 拡大後

図 15-29 上顎緩徐型側方拡大装置
(ファンタイプ)



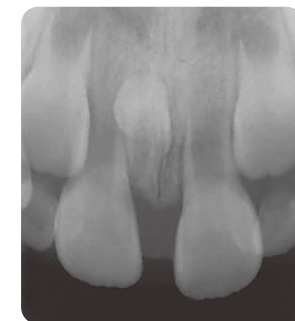
a: 二重歯列



b: 抜去した乳中切歯

図 15-30 歯根吸収を認めず晚期残存した先行乳歯

a: 術前
本症例では上唇小帯の肥厚もみられる。



b

図 15-31 正中埋伏過剰歯による正中離開

a: 術前



b: 術後

図 15-32 上唇小帯の肥厚が原因と思われる正中離開とレーザーによる手術

導処置を必要とすることが多い。

d 正中離開での上唇小帯切除術 (図 15-32, p.209 参照)

[方針] 小帯が左右の中切歯間を越えて切歯乳頭にまで及び、正中離開のおもな原因と考えられる場合には、小帯切除を行う。術後、自然に正中が閉鎖しないときは誘導処置が必要となる。

e 埋伏歯の牽引 (図 15-33)

[方針] 上顎前歯の埋伏の場合には、歯肉内萌出では、まず開窓による萌出誘導を行い、変化がみられないときは牽引を行う。

[手順]

- ① 当該歯が萌出するスペースが十分あるか確認する。
- ② 不足の場合は、ブラケットを接着し、ラビアルアーチを用いてレベリングとオープンコイルによるスペースの確保を行う。
- ③ 開窓して、埋伏歯にリングボタンを接着し、アーチワイヤーを利用して牽引する。
- ④ 最終的には、当該歯にもブラケットを装着して配列する。

f 前歯部叢生での乳犬歯のトリミング (ディスクング, スライシグ)

[方針] 左右中切歯、側切歯が萌出しているが、乳犬歯間幅径が狭く、軽度の叢生がみられるときは、解消するために乳犬歯近心のトリミングを行うことがある。側切歯の萌出途中では乳犬歯間幅径拡大を期待して、処置は行わない。